

平成29年度国立大学法人等施設整備費要求事業の評価案の概要

カテゴリー	要求事業	重点事業（事務局案）			重点事業（修正案）	
		評価	事業数 ※下段（ ）書きは 今回評価した事業数		事業数 ※下段（ ）書きは 今回評価した事業数	割合
				割合		
(1) 安全・基盤 (対象事業) ○耐震事業 ○基幹・環境整備 など	501件	S	272件 (153件)	69% (58%)	272件 (153件)	69% (58%)
		A	47件 (34件)	12% (13%)	47件 (34件)	12% (13%)
		B	68件 (67件)	17% (25%)	68件 (67件)	17% (25%)
		C	9件 (9件)	2% (3%)	9件 (9件)	2% (3%)
		小計	396件 (263件)		396件 (263件)	

(2) 機能強化 (対象事業) ○教育研究環境の改善 ○病院の再生整備	587件	S	145件 (59件)	39% (23%)	146件 (60件)	39% (24%)
		A	91件 (66件)	24% (26%)	90件 (65件)	24% (26%)
		B	94件 (87件)	25% (34%)	94件 (87件)	25% (34%)
		C	43件 (42件)	12% (17%)	43件 (42件)	12% (17%)
		小計	373件 (254件)		373件 (254件)	

(参考)平成28年度評価

合計	1,088件	S	417件 (212件)	54% (41%)	418件 (213件)	54% (41%)	433件	56%
		A	138件 (100件)	18% (19%)	137件 (99件)	18% (19%)	244件	32%
		B	162件 (154件)	21% (30%)	162件 (154件)	21% (30%)	59件	8%
		C	52件 (51件)	7% (10%)	52件 (51件)	7% (10%)	33件	4%
		計	769件 (517件)		769件 (517件)		769件	

※割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計の計数が一致しない場合がある。

新評価項目の評価結果について(1)

(機能強化、サステイナブルキャンパス、施設マネジメントの取組事例)

1. 機能強化

法人名	事業名	概要
東京大学	臨海実験所老朽化改築	・既存2棟を1棟に改築することで、研究室と実験室・実習室の集約化を図り(約100m ² 縮減)、 オープンラボ、実習室、レクチャーホール等を整備 。これらのスペースを活用することで、 産学連携の共同研究 (総合研究大学院大学、京急油壺マリパーク、神奈川県水産技術研究センター、三浦漁業協同組合)を 加速 。
新居浜高等専門学校	エンジニアリングデザイン教育センター・ものづくり工房老朽化改修	・ 類似機器の統合・集約、スペースの再配分 を行うことで、今まで特定の学科が限定的に使用し、別々の場所で作業を行っていた効率の悪いスペースを、 全学科の学生が使用できるスペースに再配置 。 ・また、実習機器の集約・連携により、新居浜市、えひめ東予産業創造センター等地域団体・企業との共同研究を加速。

2. サステイナブルキャンパス(先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギービル取組等))

法人名	事業名	概要
群馬大学	附属幼稚園老朽化改築	・ 複層ガラスの窓、LED照明、断熱方法の工夫 等により、最新の省エネ基準から、エネルギー消費量を 50%削減 。 ・さらに、太陽光発電の導入による再生可能エネルギーの割合を50%に。
名古屋大学	世界最先端イノベーション創出拠点改築	・ 高効率の空調設備、複層ガラスの窓、LED照明、断熱材の工夫 等により、最新の省エネ基準から、エネルギー消費量を 58%削減 。

3. 施設マネジメント

法人名	事業名	概要
千葉大学	園芸ゲノム科学研究センター棟等の老朽化改築	・改築整備にあたり、事務棟、共通実験棟など5つの建物に分散している資源や人員、機器類を 1つの建物に集約する(約6%面積を縮減) ことで、事務、情報収集、研究成果発表、機器分析、オープンラボ機能を効率よく利用できるようにする。 ・また、保有面積減により、 削減できた費用を施設の維持管理費に充当 。

新評価項目の評価結果について(2)

(課題)

(1) 安全・基盤

(対象事業)

- 耐震事業
- 基幹・環境整備 など

(2) 機能強化

(対象事業)

- 教育研究環境の改善
- 病院の再生整備

1. 安全安心な教育研究環境基盤の整備【4点満点】

A 2. 機能強化等への対応【4点満点】

- ①必要性 ②実績・持続発展性

B 3. サステナブルキャンパスの形成【3点満点】

①環境対策工事項目数 or CO2削減量【2点満点】

①環境対策工事項目数 or CO2削減量【2点満点】
②先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル等の取組等)【1点満点】

C 4. 施設マネジメント【4点満点】

①適正性、費用の妥当性【2点満点】

①適正性、費用の妥当性【2点満点】
②仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト【2点満点】

D 1. キャンパスマスタープランに関する取組【+1、±0、-1点】

- ①基本方針の検討状況、②整備方針の検討状況、③活用方針の検討状況、④実現に向けた取組の状況、⑤キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制

E 2. 施設マネジメント等に関する取組【+1、±0、-1点】

- ①施設マネジメントの推進のための仕組みの構築、②施設の有効活用、③適切な維持管理、④適正な事業執行

A 【2. 機能強化等への対応】
a:95(37%) b:139(55%) c:20(8%)
[昨年 a:35% b:57% c:7%]

(課題)

- ・建築的工夫・特徴に関する記載が不十分である大学が多かった。
- ・新增築の理由が未記載である大学が多かった。

B 【3. サステナブルキャンパスの形成 ②】 a:7 c:247
(課題)

- ・先導的モデルへの取組がまだ少ない。

C 【4. 施設マネジメント ②】 a:83 c:182
(課題)

- ・具体的な記載が不十分である大学が多かった。

D 【1. キャンパスマスタープランに関する取組】
a:0 b:68 c:23
(課題)

- ・評価結果が偏った。(元々は全部c評価(参考3))。
- ・具体的な取組内容について不明瞭であったり、記載が不十分な大学が多かった。

E 【2. 施設マネジメント等に関する取組】
a:1 b:88 c:0
(課題)

- ・評価結果が偏った。(ほとんどb評価)
- ・取組の効果に関する記載が不十分である大学が多かった。

今後の方向性

- 大学による記載が不十分であった点については、記載要領での強調や説明会などを通じて周知徹底を行う。
- Bについては、5か年計画で定めた取組であり、引き続き推進する。
- D Eについては、大学の取組の進捗状況を踏まえて見直しを検討する。

基本的な考え方

○「①必要性」、「②実績・持続発展性」のそれぞれについて評価

- ・高く評価できる取組:「a」
- ・評価できる取組 :「b」
- ・低評価の取組 :「c」

○上記の評価を行った結果、全体評価を以下の通りとする。

- ・①②が「ともにa」の場合は全体評価を「a」
- ・①②が「aとb」又は「全てb」の場合は全体評価を「b」
- ・上記以外は全体評価を「c」

「a」の例(〇〇の部分ではできるだけ具体的な記述であること)

① 必要性	<p>(教育研究内容) ※ 教育研究の内容や魅力をわかりやすく、明確に記載。</p> <p>(大学改革との関連性など) ※ <u>大学改革</u> (中期目標中期計画、運営費交付金における3つの重点支援枠 (①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進、②分野毎に優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進、③世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進) など) との関連性や、<u>教育・研究・社会貢献上の位置づけ</u>を、具体的にわかりやすく、明確に記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該研究は、<u>本学の中期目標・計画に位置付けられている世界トップレベルの研究を推進する重点分野に該当し、研究の成果は〇〇などの貢献が期待される。</u> <p>※ 附属病院については、中期目標中期計画、政府の医療政策、新たな医療需要、地域性などを勘案した上で、地域間及び附属病院間ネットワークの中で、個々の附属病院における機能・役割を、①教育、②研究、③診療、④地域貢献・社会貢献、⑤国際化の観点から記載。また、本事業により、当該機能・役割がどのように達成されるのかについて併記。</p>
② 実績・ 持続 発展性	<p>(実績) ※ 受賞歴、競争的資金の獲得状況、論文数、特許数、共同研究・受託研究数などを記載。 ※ 附属病院については、病床数(個室率を併記)、入院患者数、外来患者数、手術件数、医師数(研修医数を含む)、治験件数などを記載。また、これらの将来予測数を併記。</p> <p>(持続発展性) ※ <u>中長期的な教育研究活動の継続・発展に関する取組、社会との接点</u>(地域、自治体、産業界など)を継続・発展させるための<u>施設整備等</u>による特徴や工夫を具体的にわかりやすく記載(地域、自治体、産業界については具体的な個別名称を記載すること)。特に新增築の場合は、<u>将来的な維持に要する財源の確保状況</u>など、<u>確実な予防保全が可能であることも具体的に記載。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇分野は今後〇〇年間の長期的視点で見ると〇〇の観点から重要性がより増していくことが考えられ、当該要求事業で施設やスペースを整備し、整備後の維持管理や毎年の研究経費は地方公共団体と地域企業が負担することとなっており、持続的に〇〇のような人材の育成を強化できる。 ・当該要求事業で整備予定の施設やスペースを〇〇や〇〇のように活用することで、これまでは〇〇であった教育研究活動が〇〇になり、〇〇や〇〇の実績増加が見込める。 ・当該要求事業で整備予定の施設やスペースを〇〇のように活用することで、〇〇地域の産業育成との連携(〇〇地域の〇〇研究機関との共同研究等)をさらに加速させるとともに、継続的に〇〇地域の〇〇なニーズと大学の〇〇なシーズとをマッチングさせる仕組みを構築できる。 <p>※ 附属病院については、入院患者数、外来患者数、手術件数などの増加や新たな医療需要への対応など、将来の変化に対応するための建築的工夫を具体的に記載。</p>

基本的な考え方

- 「仕組・体制」/「施設の機能向上」/「施設の有効活用」/「多様な財源等の活用」のそれぞれについて評価
 - ・高く評価できる取組:「a」
 - ・評価できる取組 :「b」
 - ・低評価の取組 :「c」
- 上記の評価を行った結果、①が「b」以上、かつ、②～④のうち「a」が2個以上の場合は、全体評価を「a」とする。
- なお、評価の際には、大学や要求施設の特徴などを踏まえることとする。

「a」の例(〇〇の部分ではできるだけ具体的な記述であること)

①	施設マネジメントに関する仕組・体制の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・要求施設について、施設を利用する関係部局間で〇〇委員会(ワーキング等)を設置し、施設利用者の選定や機器の共用化などの規定を作成し、効率的な運用の体制を整えた。事業化については、〇〇委員会において決定している。 ・整備後の教育研究等への効果について、〇〇を評価指標として設定したことにより、評価結果をフィードバックし教育研究環境の改善を図る仕組みを構築した。
②	施設の機能向上に関する取組(クオリティ)	<ul style="list-style-type: none"> ・要求施設について、諸室の再配置計画を検討し、研究室の集約化及び実験室等については、リノベーションにより、フレキシブルな施設利用が可能なオープンラボ方式とした。 ・また、カリキュラムなどのソフト面、運営体制を構築し、学生の修学環境の向上を目的としたICT機器の導入を考慮したアクティブ・ラーニング・スペースを整備することとした。
③	施設の点検・評価や有効活用に関する取組(スペース)	<ul style="list-style-type: none"> ・要求施設の改築整備に際して、老朽化した施設の精査を行った上で必要な施設の集約化を行い、結果として〇〇㎡の縮減を図った。 ・要求施設について、諸室の面積配分の見直しによる集約化、機器の共用化等により、複数の教員が必要に応じて柔軟に利用できる共同利用スペース〇〇㎡を生み出すなど、稼働率向上(従前に比して稼働率〇〇%向上)のための工夫を図った。
④	多様な財源等の活用に関する取組(コスト)	<ul style="list-style-type: none"> ・要求施設の〇〇部分については、〇〇%を企業からの寄付、〇〇%を自己財源から充当し、整備の充実を図る。 ・要求事業に関して、外部資金を獲得する研究者が多い建物となることを考慮し、共同利用スペースにスペースチャージを行い、当該スペースの維持管理経費等に充当することとした(維持管理経費全体の〇〇%)。 ・改修によるランニングコスト削減見込額(〇〇円)をもって、学内施設の維持管理費に充当し、予防保全を実践することを〇〇委員会で決定した。 ※維持管理費の削減効果が見込まれる事業については、その削減額の推計値を具体的に記載すること。 ※上記削減見込額にかかわらず、削減実績のフォローアップを検討中。